2022.04.21. 木曜礼拝

これから起こることへの警告

エレミヤ書 4 章

JD ファラグ牧師

主を称えます。神の祝福がありますように。どうぞお座りください。今夜来て下さり嬉しいです。ようこそ、歓迎します。また、オンラインでご参加の皆さんも歓迎します。今夜は 4 章です。今回も 1 章だけです。先週お伝えしましたが、この書を読み終えることを急いではいません。今夜もたくさんのことがあり、急ぎたくはありません。聖霊が今夜、私たちのために用意されていることをお語りになるために、いわば必要な余地を与えたいのです。祈りのことばで始めましょう。カポノ（賛美リーダー）が先ほど祈ってくれました。良い祈りです。では祈りましょう。

主よ、今日や今週起こったことに気を取られて、今夜の御言葉から遠ざかってしまうようなことがないようにしたいです。主よ、私たちは木曜日の夜のこの聖書の学びをとても楽しみにしています。共に集まり、すべての忙しさを忘れて、あなたに集中することができる場所です。私たちはいつも、来たときとは違う状態でここを後にします。今夜も例外ではありません。あなたがここで私たちに会って下さり、私たちに働きかけてくださり、私たちの人生に語ってくださいます。そして、主よ、私たちはあなたを求めてやみません。私たちは非常に飢え、渇き、必要としています。あぁ、主よ、私たちはあなたが必要です。主よ、今夜、私たちの時間を御言葉で祝福するだけでなく、私たちの中にあって、あなたが望まれることを行ってください。主よ、傷ついている人を励まし、知恵を求めている人を力づけてください。主よ、高きところから、私たちの叫びの声を聞いてください。主よ、私たちが不誠実なときでさえ、あなたはとても誠実です。主よ、そのことに感謝します。主よ、私たちは今夜の時間をあなたに捧げ、あなたの祝福を求めます。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

それでは。この 4 章では、神は預言者エレミヤを通して、これから起こる脅威と裁きについて人々に警告しておられます。悲しいことに、南ユダは、この警告に耳を傾けないのです。そして、その 100 年前に北イスラエルがアッシリアに捕囚されたように、バビロンに捕囚されるのです。ですからこれから見るように、特に最初の 4 節で、神はただ民に懇願しておられるのです。今晩は、この問題をよく考えて、この問題を心に留めておいてください。というのは、本当に肝心なことだからです。今夜の問題は、現代に生きる私たちが、来るべきものについての警告に耳を傾けるかどうかということです。本題に入る前に前置きとして説明します。私たちの時代と、エレミヤが当時書いていることが預言的に類似しているのです。この 2 つの言葉については、これから詳しく説明しますが、凍りつくような衝撃。なぜなら、ここに事実があるからです。裁きは来ます。これは私たちへの警告です。だからこそ、聖書にこのことが記されているのです。時には、「なぜ」という問いを、自分自身に投げかけるのもいいのではないでしょうか。神はなぜこのようなことを聖書に書く必要があるとお考えになったのか？

答え：「裁きが来るという警告に耳を傾けてほしいからです。これがこの先起こることです。気を付けなさい。それは来るからです。わたしの民、ユダは気に留めなかった。そしてそれが起こった。」

エレミヤの預言には、神が言われたとおりのことが起こるという、かなり生々しい詳細と描写があります。それは起こりました。ですから今夜は…手短にもう一つ。私たちは皆、「これは当時の彼らのためのものだ」という旗印のもと、今夜のような章から自分自身を切り離し、権利を奪う傾向さえあるのです。今の私たちには、まったく関係がないことだと。いいえ、関係あります。むしろ、現在の世界の状況を考

えると、当時の彼らよりも今の私たちの方が、顕著に当てはまると言えるかもしれません。裁きが来ようとしています。これは、神の預言者エレミヤを通して語られる、神から民への警告です。そして、今夜もこの章から見えてくることの一つは、この章が神の愛の心からの訴えであることです。神はご自分の民を非常に愛しておられます。そして、それがこの預言、この書の織りなす共通の糸なのです。このことが私たちの理解に非常に重要である理由は、神の愛に対する誤解があるからです。このような章を読んで学んでも、全てを見落とす可能性があります。実際、先程述べたようなつながりや、その箇所から自らを切り離すことを本当に助長してしまうのです。なぜなら、私たちはそれを見ず、理解せず、誤解しているからです。そのため、私たちの人生に適用することはありません。日曜日の朝に、私たちがヤコブを通して学んでいるように、私たちは、ただ御言葉を聞くだけで、御言葉を行う者ではなくなってしまうのです。神は預言者エレミヤを通して、民に懇願しておられます。

「耳を傾けなさい。これは、これから起こることへの警告なのだから、何かをしなければならない。」

では、1 節に入りましょう。

エレミヤ 4

1 主は言われる、「イスラエルよ、もし、あなたが帰るならば、わたしのもとに帰らなければならない。もし、あなたが憎むべき者をわたしの前から取り除いて、ためらうことなく、

「もし…するなら、」「もしあなたがこうするなら、 あなたを不動にする。」この”憎むべきもの”とは何でしょうか？　民がひざまずき、礼拝していた偽りの神々のことです。またすぐに自分自身から切り離して、「それは当時のことで、私は偶像や像のようなものは持っていない」「私はバアルを礼拝していない。」と言うことのないようにしましょう。そう急がずに。罪の意識をなくすため、名前を変えています。同じ神々ですが、名前が違うのです。再梱包されているのです。そしてそれは、神の御目から、憎むべきものなのです。私たちの人生において、神だけが占めるべき本来の場所を奪ってしまったものたち。私たちはそれらに敬意を表し、それらにひざまずき、敬い、礼拝するのです。私たちはそれらに忠誠を誓い、私たちの人生の中で、愛情を支配し、執着さえする主人となるのです。私たちが最もよく考え、最もよく費やすものです。汎用的なものにしておくので、皆さんが空欄を埋めてください。聖霊はいつも忠実に、優しく、愛情を込めて、主の御目に忌まわしいもの、主の御目に不快なものを指し示してくださるのです。

「神は嫉妬深い神である」という言葉を読むとき、神が私たちに嫉妬しているのだとは決して想像しないでください。私たちのために嫉妬しているのです。大きな違いです。言葉遊びではありません。神は私たちを非常に愛しておられ、神は私たちを、神でも何でもない、決して頼りにならない偽りの神々から守ろうとしておられるのです。それが民がやっていたことです。神は「それらを捨てなさい、取り除きなさい」と仰っているのです。「わたしの前から取り除きなさい。もしそうするなら…」重大な「もし」ですね？　1 節の一番始めの言葉が、(※英訳では)「If/もし…」です。「もし、あなたがそうするなら、わたしのもとに帰って来なさい。わたしの目の前から憎むべきものを捨て去りなさい。取り除きなさい。そうすれば、あなたは不動となる。」繰り返しますが、民は耳を傾けませんでした。そして彼らは侵略され、捕囚となり、動かされたのです。2 節。

2 また真実と正義と正直とをもって、『主は生きておられる』と誓うならば、万国の民は彼によって祝福を受け、彼によって誇る」。

これは前の章からの続きで、主はご自分の民に対する愛のゆえに、本質的にご自分の民に懇願し続けておられるのです。理にかなっていますよね？　もし神が彼らをそれほど愛しておらず、私たちをそれほ

ど愛しておられないなら、なぜ気にされるのか？　何が言いたいのか？　つまり、どうでもいい人に対して、警告するほど愛し、気にかけないでしょう。その人を愛しているからこそ、警告し、懇願するのです。彼らへの愛のゆえに。これは私たちを本当に愛しておられる天の父からの愛によって書かれたものだということを理解することは、いくら強調してもしすぎることはないと思います。3 節。

3 主はユダの人々とエルサレムに住む人々にこう言われる、「あなたがたの新田（耕地）を耕せ、いばらの中に種をまくな。

さて、4 節に移る前に少しお待ちください。4 節と関連していますが、耕地を、ただ単に固く耕されていない土地だと考えてはいけません。違います、一時期は耕地はとても生産的だったんです。しかし、荒れて硬くなり、生産性が悪くなったのです。それは放置されたからです。耕すこともできず、種を植えることもできない。そして、もし植えるとしても、茨の中に蒔くだけでしょう。なぜなら、かつて生産的だったその耕地が、今は不毛で硬くなっているからです。そこには、栽培されていた頃のものに代わって、茨があるだけです。では、どのように 4 節に結びつくのか？

4 ユダの人々とエルサレムに住む人々よ、あなたがたは自ら割礼を行って、主に属するものとなり、自分の心の前の皮を取り去れ。…さもないと、あなたがたの悪しき行いのためにわたしの怒りが火のように発して燃え、これを消す者はない。」

この悪しき行いについては、間もなくお話しします。耕地と無割礼な心との関係に注目してほしいと思います。もちろん、比喩的に言えば、霊的な意味で、肉を切り取ることです。いわば、「あなたの心は肉に覆われ、あなたの地はいばらに覆われている。」ですから、私たちはこれに関して、どうにかしなければなりません。砕くことから始めましょう。この言葉「砕く」です。「砕く」という言葉には、深い意味がありますね。神があなたを砕かれる時…　私は砕かれる必要があります。なぜなら、もし私が砕かれないままなら、私の地は荒れ、茨でいっぱいになります。そして、私の心が割礼を受けていないなら、肉でいっぱいになります。神はこう仰っています。「もしあなたがその状態のままなら、わたしに選択の余地はない。」そして、本当によく考えてみると、これが彼らの頑固さに関することの背後にある理由です。彼らには、無割礼の硬い心がありました。神は、彼らが理解したであろうこれらの比喩を用いておられるのです。現代の、農業社会と経済と世界は、もしかしたら異質なものなのかもしれません。心の割礼もまた、私たちにとって異質なものである可能性があります。しかし、彼らはそれを理解したはずです。それを持ち出して、現代の私たちに当てはめると、こんな感じになると思います。私の心があまりにも硬いため、神の御言葉の種が私の心のしなやかな土壌と出会えないのです。なぜ私の心はそんなにも硬いのか？なぜなら、砕かれていないからです。なぜ私の心は、それほどまでに硬いのか？　かつて神の御言葉の種を受け入れるために耕された、しなやかで肥沃な土壌を、時が経つにつれ、私はないがしろにしてきたからです。すべての御言葉にしがみつき、神の御言葉に渇き、飢えていたのに。しかし、時が経つにつれ、それは薄れていき、ああ、重い重い代償を払うことになるのです。A.W.トーザーを思い浮かべます。

前にも話したことがあるのですが、彼は今、主のもとにいるので、これはあまり公平ではないかもしれませんが、私はトーザーと愛と憎しみの関係があります。オズワイルド・チェンバーズもです。ある時期のことを思い出します。私は、トーザーの本で 3 ヶ月ほどデボーションをしていました。3 ヶ月目が終わる頃、私はこんな感じです。「もう耐えられない。」つまり…　彼は手加減しないのです。率直に語るのです。私は聞きたくありません。しかし問題は、聞く必要があるということです。その中に、特に耕地について書かれた文章があります。彼は「耕地は満足している」と言い、「うぬぼれ」という言葉を使っています。

しかし、鋤（すき）がいつも手早く、激しくするように、鋤が入ってくれば、決して中断されることはありません。耕地が楽しんでいた沈黙を破るのです。つまり、すべては良かったのです。鋤が入り、崩し始めるまでは。「私は自分の不潔さ、硬さに満足し、うぬぼれていた。実のところ、いばらにはもう慣れた。」そして、ここに神の砕く鋤がやってきて、混乱させ、割り込み、砕くのです。かつて平和で静かで満足し、子守歌によって霊的に眠っていた耕地。それが今や、すべて変わりました。しかし、そのうぬぼれた耕地が払った重い代償とは、不毛であったということです。何も実らず、そこでは何も育ちません。そこは渇き、硬く、不毛だったのです。鋤が入って来ることを許し、耕地を砕く必要があるのです。そうすれば、種が植えられるのです。新しい命が発芽し、芽吹き、多くの実を結ぶのです。しかし、砕かれねばなりません。心の割礼によって、肉を取り除くというのはどうでしょう。いいですか、肉、世界、悪魔、いわば、ビッグ 3 です。

「あなたの心はあまりにも肉的で、世俗的なのです。わたしの愛する者よ、ここに問題があります。あなたのそんな姿を、見てられません。わたしにはやりたいことがたくさんあるのに、できないからです。それを取り払いなさい。砕いて、切り取りなさい。そうすればわたしは出来るのです。」

これが、神が民に懇願しておられることです。そして、警告と一緒になっているのです。

「もしこれをしないなら、わたしの怒りは火のように出てくる。」「わたしは長い間、じっと我慢してきた。わたしは忍耐深いからだ。わたしは喜ばない。わたしは、しつけや裁き、懲らしめをすることに喜びや楽しみを感じない。一番やりたくないことだ。裁く必要がないように、悔い改めるためのあらゆる機会を与えたい。」しかし、私たちは神に無理にさせてしまうのです。5 節。

5 ユダに告げ、エルサレムに示して言え、「国中にラッパを吹き、大声に呼ばわって言え、『集まれ、われわれは堅固な町々へ行こう』と。

6 シオンの方を示す旗を立てよ。避難せよ、とどまってはならない、わたしが北から災と大いなる破滅をこさせるからだ。

この描写を見てください。7 節。

7 ししは…

何かきっかけや理由があるまではおとなしくしているものです。それが今、この 7 節に書かれていることです。

7 ししはその森から出てのぼり、国々を滅ぼす者は進んできた。…

バビロンのことです。

…彼はあなたの国を荒そうとして、すでにその所から出てきた。あなたの町々は滅ぼされて、住む者もなくなる。

8 このために、あなたがたは荒布を身にまとって、悲しみ嘆け。主の激しい怒りが、まだわれわれを離れないからだ。」

わぉ、ここまではどうですか？　大丈夫ですか？　良くなっていきますよ。実は悪くなっていくんですが。よろしければ、みんなでうつむいて目を閉じますので、抜け出してもいいですよ。もちろん駐車場で止められますから、あなたは出て行けず戻って来なければなりません。ところで、冗談ですよ。発言に気を付けないといけませんね。ー（笑）ー　さて、ここで何が起こっているのか？　なぜそんなにも強烈なのか？　なぜなら、彼らは悔い改めず、悔い改めようとせず、警告を聞こうとしないからです。神がこう

仰っているようです。「あなたはわたしの手を押しのけている。わたしは破滅と荒廃をもたらさなければならない。それが唯一の方法だから。ここまで来てしまった。最後の手段なのです。そうするしかありません。」9 節。

9 主は言われる、「その日、王と君たちとはその心を失い、祭司は驚き、預言者は怪しむ。」

10 そこでわたしは言った、…

1 章でこのことを話したと思います。10 節に関して、どうかご辛抱ください。エレミヤは言うのです。「ああ…！」この「ああ」と訳された言葉は、始まってすらいません。その感情の強さ、大きさを表現するには、到底及ばないのです。泣き叫びであり、嘆きなのです。そして、英語では A と H の 2 文字です。（Ah/ああ）「ああ…！」「あぁ…」こういう言い方もできるかもしれません。「あ〜…、主よ…？」

10「ああ主なる神よ、…そしてエレミヤはこう言います。…まことにあなたはこの民とエルサレムとをまったく欺かれました。『あなたがたは安らかになる』と言われましたが、つるぎが命にまでも及びました。」

何と？？　エレミヤは民を欺いたと神を非難したのですか？　ー違います。始めに読んだときは、そう思うかもしれませんが…もう一度ご辛抱ください。これに少し時間をかけましょう。これについて、主に尋ねました。確かに私は解説書を見ましたが、聖霊が中心です。

「主よ、あなたがここで伝えようとしておられることに、私の理解の目を開いてください」と。10 節で私が理解したことはこれです。エレミヤは、ただただ驚いていました。そして、エレミヤは混乱しているとさえ言えるでしょう。エレミヤは非常に葛藤しています。そしてこのことは、これから見ることになる生の感情と一致することになるのでしょう。エレミヤはここで本当に辛い思いをしています。その辛い思いとは、なぜ神が当時の偽預言者たちがこう預言して人々を惑わすことを許しておられるのかということに関係しているのです。「安らかになる、平和だ、すべて良し。おぉ、エレミヤの言うことは聞くな！奴はお先真っ暗な預言者だから。すべて良くなる。大丈夫だよ。」エレミヤは本当に苦しんでいます。エレミヤは神を非難しているわけではありません。強すぎると思うのです。しかし、公平に見て、エレミヤがここでやっていることは、なぜ偽預言者たちが人々を欺くのを許されるのかと、主に問いかけているのです。さて、主の御心なら、来週は 5 章の最後、31 節あたりだと思いますが、この空白を埋め、点と点をつないでいくのです。なぜならエレミヤは、彼らが偽りの平和を預言していると言っているからです。このことはイザヤ書でも見ました。預言者たちの書には、主要なものからそうでないものまで、平和がないのに「平和だ、安全だ」と偽預言者が預言している箇所がたくさんあります。イザヤ書では、もっとこんな感じです。人々は、聞こえの良いことだけを語るよう要求したのです。「私たちはそんなこと聞きたくない。」エレミヤはこのことで非常に苦しんでいます。「神よ、剣が来るのです。裁きが来るのです。私は人々に警告しているのです。これが起こることであり、必ず起こると。それは実現しました。

神よ、なぜ偽預言者たちがあなたの民に「いや、そんなこと起こらないよ」と言って欺くことをお許しになっているのですか？」繰り返しますが、私の心の思いをお伝えするので、ご辛抱ください。というのも、これは問題だからです。私は毎週日曜日、神の恵みによって、私の特権としてここに上がっています。そして本当に私がやっていることは、特に最近、明らかな理由があるとみなされることを望んでいるのです。私は警鐘を鳴らしています。人々に警告しています。なぜなら、預言者エゼキエルによれば、もし私が人々に警告しないなら、人々の血の責任が私にあるからです。反対に、もし私が人々に警告し、人々がその警告に耳を傾けないなら、人々の血の責任は、私にはありません。その人達の責任です。私は神に召

されたことを、不人気であろうと行ってきました。しかし、エレミヤのように、私もこのことで苦しんでいることを伝えなければ、良くても不誠実、悪くても不正直と言わざるを得ないでしょう。「神よ！...う“～！」そこまでひどくはないですが。でも、そんな時もあります。つまり、歯を食いしばるのです。神に怒っているわけではありません。決して神を非難したり、責めているわけではありません。ただ、疑問なのです。神よ！彼らは人々に、こう言っています。「はーい、そんなの聞いちゃだめだよ。」彼らはYouTube動画を作っているのです。「お先真っ暗な男の言うことは聞くな。いいや、これが終わりじゃないよ。すべて良くなる。前進しつづけて。ここには見るべきものはないよ。落ち着いて。歩み続けよう。平和、安全、すべて良くなる。」！！！？？？　いいえ、違います！！　神よ、彼らは人々に偽りの預言をし、平和がないのに、偽りの安全、偽りの平和を預言しています。理由は知っています。繰り返しますが、私がこれを告白しないなら、良くても不誠実、悪くても不正直になるでしょう。つまり、上から目線ではないんです。確かに私には、その可能性があるのです。聞いてください、私はここに来て、ただ聞こえの良いことを伝えれるようになりたいのです。これほど嬉しいことはありません。去年ではなく2020年に、ある時のことを、はっきりと覚えています。「主よ、嫌です」と叫んでいました。ところで、エレミヤもそうするんです。ネタバレ注意ですが、エレミヤは「私は辞めます」と言うのです。唯一の問題は、奴隷は辞められないということです。惜しいですね。しかし、エレミヤは辞めれなかったのです。こう言っています。

「もう限界です。もうこれ以上は無理です。私は、あなたに召されたとおり、人々に警告しています。彼らはそれを拒否し、私を拒絶しています。私を殺したがっています。私の根性を嫌っています。私は友達を失いました。人々は教会から去っていきます。しかし、私は真理を語っているのです。もうやりたくありません。」

一ヶ月間、ただそこに立って、ただ「神の愛」「神の良さ」について話してもいいでしょうか？「さぁ、皆でハグをしましょう。クンバイヤ～♪」ああ、それは私の人生をとても楽にするでしょう。もっとよく眠れることでしょう。霊的戦いは…？　存在しません。なぜか？なぜ敵は行ってしまったのか？　心配なのは、敵が自分を放っておくときです。敵からお礼のカードやギフトカード、奥さんへの花束が送られてきたら、本当に心配すべきです。

「これからも頑張って。あなたは全く脅威ではない。それどころか、あなたは暗闇の王国をさらに進めている。本当にありがとう。あなたはただひたすら、人々が聞きたいことを伝え続けてくれ。ただそう語りつづけてくれ。」私には出来ません。そしてエレミヤは降参し、こう言うのです。「私には出来ません。炎があるからです。あなたは私の中に燃えるような熱い炎を置かれたので、

使徒パウロが「キリストの愛が私を縛り、駆り立てる」と言ったのと同じことです。（IIコリント5:14参照）ただ、出来ないができないのです。二重否定や誤った文章構成であることは分かっていますが、…神よ、あなたはこれに私を召されました。私は人々に警告しなければなりません。私は真理を語っています。しかし、人々は通りに出て、平和のメッセージを聞きに行くのです。『あなたは安らかになる』と。それが先週の彼らの説教のタイトルでした、主よ。いや、この10節にあります。「あなたがたは安らかになる」おぉ、それが欲しいです。向こうに別の男がいます。彼のタイトルは「これから起こることへの警告」ちょっと待って...「あなたがたは安らかになる」「これから起こることへの警告」！「あなたがたは安らかになる」教会へ行こうと思います。そのほうが、口当たりがいいのです。ですから、本当にエレミヤを責めることはできません。エレミヤはここで、なぜそうなのかと苦しんでいるのです。さらに踏み

込んで言えば…考えてみてください。ここでエレミヤは警告し、これから起こることを預言しています。そして、誰も反応しません。そして、人々が大勢群がっている偽預言者たちに、非難の矛先を向けているのです。パウロがテモテに、終わりの時代に起こることを書いているように。（II テモテ 4:3,4 参照）
なぜなら、人々は健全な教義に我慢できないからです。人々は真実に耐えられないのです。聞きたくないのです。彼らは耳が鈍いのです。耳が鈍く、耳を塞いでしまうのです。彼らは聞きたくないのです。
「あー、聞きたくない！」（耳をふさぎながら）しかし、彼らは自分の聞きたいことを聞くための耳はあるのです。そして、エレミヤの時代のように、彼らの耳が聞きたくなるようなことを教える人たちには事欠きません。「あなたがたは安らかになる」11 節。
11 その時この民とエルサレムとはこう告げられる、「熱い風が荒野の裸の山からわたしの民の娘のほうに吹いてくる。これはあおぎ分けるためではなく、清めるためでもない。
12 これよりもなお激しい風がわたしのために吹く。いまわたしは彼らにさばきを告げる。」
つまり、吹いてくる風は、貿易風のような心地よいものではないのです。私たちは貿易風が大好きですよね。違います。これはハリケーンのような強風です。それがやって来るのです。裁きの風です。13 節。
13 見よ、彼は雲のように上ってくる。その戦車はつむじ風のよう、その馬はわしの飛ぶよりも速い。…
速いですね。
…ああ、われわれはわざわいだ、われわれは滅ぼされる。
14 エルサレムよ、あなたの心の悪を洗い清めよ、そうするならば救われる。…
神はまだ民に懇願しておられるのです。
…いつまで…
特にここに注目してください。
…悪しき思いはいつまであなたのうちにとどまる（lodge）**のか。**
興味深い言葉の選択です。私たちの時代なら、「のどに何か詰まった（lodge)」と言うでしょう。「そこに詰まっている（lodge)。早く取り出さなければ。」彼らの中には悪い思いが詰まって/とどまっていたのです。数ヶ月前、私はガラスの破片を踏んでしまい、それが私の足に詰まってしまったんです。そこで最初は…それはとても小さなガラスの破片だったんです。私は神に、恐ろしいほどに素晴らしく造られていて、私たちの体の中には、それを見つけて解決しようとするものがあるのです。しかし、そうなりませんでした。この破片は私の足の中に、非常に深く詰まったのです。すごく痛いのです。そして、ご存知のように、私は痛みに弱いのです。さかむけが出来ると、イエスに帰って来てもらいたくなります。それほど酷いのです。私は痛みに超敏感なのです。歯医者に行った時、もう二度と歯医者に行かなくて良いように、また歯医者に行かないといけなくなれば、その前に携挙があるようにと祈るのです。いつも麻酔を多めに打ってもらわないといけないんです。医師は、「あなたのような患者はいません」と言いました。
どうもありがとう、ドクター。そのことに感謝します。「あなたは特別です。いったいどうしたんです？」私はただ、繊細な男なんです。ー（笑）ー　ただそういう事にしてるんです。私はただ…全てを感じるのです。それには何かあるのかもしれませんが、分かりません。身体的な意味において、私の妻は、全く逆です。神を褒め称えます。妻は子どもを産む人ですから。4 人の子どものうち、3 人は硬膜外麻酔なしの自然分娩です。私はそこにいました彼女の代わりに、彼女のために、私が非常に痛むのです。
「あぁ、これは酷い…！私が麻酔を受ける。」ー（笑）ー　しかし、彼女は痛みに強いのです。とにかく、これはとても痛くて、私は、足を切開されました。「！！！」そして、破片を取り出しました。医師は私

に見せてくれました。写真に撮ったのです。受けとりたくなかったので、捨ててくださいと言いました。「下がれサタン、お前がガラスを撃ったな。」それを写真に撮りました。これが巨大なもので、私の足に刺さった/詰まったのです。何を言おうとしているか分かりますか？「悪しき思いはいつまであなたのうちにとどまるのか。」彼らの思いの深くに、とどまっていたのです。15 節。

15 ダンから告げる声がある、エフライムの山から災を知らせている。

私は災いの説教は聞きたくありません。繁栄や、善、愛、赦しの説教が聞きたいです。それらすべては聖書的ですが、しかし、これは預言者エレミヤからの災いについてのメッセージであり、災いを宣告しているのです。災いを宣べ伝えているのです。16 節。

16 国々の民に彼の来ることを告げ、またエルサレムに知らせよ。「攻めかこむ者（侵略者）**が遠くの国から来て、ユダの町々にむかってその声をあげる。**

17 彼らは畑を守る者のようにこれを攻めかこむ。それはわたしにそむいたからだと、主は言われる。

つまり、今読んだような北からの侵略、エフライムの山からの災い、遠い国からの侵略という預言は、バビロンのことなのです。そして、バビロンはまさにそれを実行するのです。興味深い数字で、裁きの数ですが、それは 40 年間だったと言われています。「あ～、そんなこと私の生きている間にはないよ。みんな、自分の生きている間にと思っていた。時間はたっぷりあるよ。たっぷりと。」

おぉ、本当ですか？　40 年後...エレミヤがこのように具体的に預言していることに注目してください。興味深いのは、エレミヤが預言したとおりになったということです。18 節。注目してもらいたいので、強調します。

18”あなたの”道とその行いとが、あなたの身にこれを招いたのだ。これは”あなたの”悪の結果で、まことに苦く、”あなたの”心をつらぬく。」

この教訓をよく理解していますね。あなた自身が招いたことです。他の誰のせいでもなく、あなた自身のせいなのです。私たちはいつも自分以外の人のせいにします。彼らが悪い、彼のせいだ、彼女のせいだ…いや、いや、違います。あなたのせいです。自分で調達したものなのです。どんなこと？　ーあなたの悪事です。あなたが自分自身にもたらしたのです。必ずや、あなたの罪があなたを見つけ出すでしょう。繰り返しますが、神は罪を裁くことに喜びや楽しみを感じられません。神はいつも忍耐しておられ、私たちに悔い改める時間を与えてくださっています。なんと、神はアモリ人に、裁きが来るまで 400 年も悔い改める時間を与えたのです。（創世記 15:13－16 参照）

それを、長く忍耐すると言うのです。神は私たちにそうしてくださるのです。そして”もし”ではなく、神の重い御手が下る”とき”あなたの道、あなたの行い、あなたの悪意、あなたの心のせいであることを、明確にする必要があります。19 節、ここで角を曲がります。これはエレミヤです。

19 ああ、わがはらわたよ、わがはらわたよ、わたしは苦しみにもだえる。ああ、わが心臓の壁よ、わたしの心臓は、はげしく鼓動する。…

心臓血管の事象ではなく、あなたの心の中にあるこの身体的な深い痛みを、聞いたことがありますか？つまり、あなたの心は非常に傷つき、痛んでいるのです。これは興味深く、エレミヤがこう言うように聖霊が促したのでしょう。

...ああ、わが心臓の壁よ、わたしの心臓は、はげしく鼓動する。

私は人生の中で、深く、深く、苦しく、辛い時期があったことをお伝えします。こんなにも痛むとは知らなかったでしょう。こんなにも深いとは知らなかったでしょう。それは、心の奥底から湧き上がってくる

ものです。このたましいの苦悩。エレミヤはこう言います。
…わたしは沈黙を守ることができない、ラッパの声と、戦いの叫びを聞くからである。
エレミヤは、詩編のダビデと同じことをしているのです。聞いてください。エレミヤは自分自身と対話をしているのです。独り言とは違います。独り言は、良くありません。非常に悪いです。それは、自分で自分に語りかけることです。「あぁ、お前は無価値だ、負け犬だ。お前は汚くて、腐っていて、悪臭を放つ罪びとだ。」その通りですが。しかし、私には救い主がいます。あしからず。しかし、それは独り言であり、自分自身に語りかけることとは異なります。詩編 42 章、43 章は、一つの詩だったと言われています。この貴重な 2 つの詩篇は、世代を超えて、繰り返し多くの人がそこに慰めを見出したと言うように、とても大きな意味を持つものです。ダビデは、自分自身と対話し、「座って、話をしよう」と言うのです。
「わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。」(詩編 42:5)
「あなたは再び主をほめたたえるようになる。元気を出し、頑張るのだ、私のたましいよ。落ち込んでいるのは知っている。」自分自身に語り掛けているのです。それに臨床用語があるのは知っていますが。信号待ちの車内ではやらないでください。自分一人しか乗ってないのに。人々が見て、「あぁ、そういう人ね…」と。違います。主に対して話しているのです。自分自身に語りかけ、両方に語っているのです。「あぁ、私のたましいよ。おぉ、主よ。」主はこんな感じです。「あなたは自分と話す必要がありますね。」「さぁ、座りなさい。話し合う必要がある。ちゃんと話し合う必要がある。」あぁ、わがたましいよ、私のたましいよ。20 節。
エレミヤ 4
20 破壊に次ぐに破壊があり、全地は荒され、わたしの天幕はにわかに破られ、わたしの幕はたちまち破られた。
21 いつまでわたしは旗を見、またラッパの声を聞かなければならないのか。
これは戦いのラッパです。日曜日にこのことについて少し触れました。神のラッパと御使いのラッパという 2 つのラッパに区別されます。神のラッパは教会のためです。御使いのラッパはイスラエルのためです。その区別をしてください。初めのラッパがあり、終わりのラッパがあります。ラッパは神の民を集めるためですが、その理由は様々です。ここでのラッパの音は、戦いのために神の民を集めるためです。また、婚姻のために、民を集めるためのラッパもあるのです。それこそが、私が聞くラッパの音であり、神がご自身の民を集めるためのものです。そこで、これが主の応答です。22 節。
22「わたしの民は愚かであって、…
何も問題はないと思いますが、この主とエレミヤの対話を想像してみてください。エレミヤは苦しみ、問いかけ、懇願し、主に語りかけ、自分自身に語りかけています。「あぁ、わがたましいよ...」そこで、この主の応答です。これだけでも、良い学びであり、私たちにとっての収穫です。私たちが主に語りかけるとき、どうなると思いますか？　主は私たちに語り返してくださるのです。よく言われるように祈りとは独白ではなく、対話です。私たちは祈り、主に尋ね、求めます。主は、答えてくださるのです。これが主の返答です。「エレミヤよ、…
22「わたしの民は愚かであって、わたしを知らない。彼らは愚鈍な子どもらで、悟ることがない。…
再度、特にここに注目してください。
...彼らは悪を行うのにさといけれども、善を行うことを知らない。」
頭に入れておいてください。これこそ、現代に通じる凍りつくような驚くべき預言的類似性というもの

です。悪に関してはとても優れているのです。善に関しては、非常に未熟なのです。イザヤ書で学んだのと同じように。

「わざわいだ。悪を善、善を悪と言う者たち。」（イザヤ 5:20）

彼らは悪を行うことが非常に上手いのです。悪を善と呼ぶのです。彼らは悪を行うことに優れており、善を悪と呼ぶのです。皆さんが理解できたと願います。要点は分かりますね？　逆にするのです。あぁ、「悪のこととなると、奴らはプロだな」と言われるような者に数えられることがないようにと神に願います。「彼らは悪の知恵と知識において非常に優れている。」「彼らは悪を行っている。」「彼らは悪事を働くことを熟知している。」しかし、善のこととなると…愚かな子どもなのです。無知なのです。彼らは教養がなく、知識がありません。悪のこととなると、非常に知識があるのです。しかし、善のこととなると…ありません。手短に…私は、この世界が悪を行うのに賢くなり、善を行うのには知識がないことに、こんにちの現代の懸念について、他にどのような結論を出せるのかわかりません。善の知識はありません。それは今、私たちが世界で見ていることに証明されていると思います。23 節。

23 わたしは地を見たが、それは形がなく、またむなしかった。…

創世記にある天地創造前のように聞こえませんか？　そうだからです。創世記にある、天地創造前と同じようです。神は預言者エレミヤを通して、天には光がないと言っておられるのです。つまり、

「すべてをまとめているのはわたしです。わたしを除外すれば、こうなります。もとの世界にもどり、形もなく空虚な世界になり、天には光はありません。なぜなら、天と地を創造したのはわたしだからです。ことばによって創造したのはわたしです。」

「光あれ。すると光があった。」（創世記 1:3 参照）　24 節。

24 わたしは山を見たが、みな震え、もろもろの丘は動いていた。

25 わたしは見たが、人はひとりもおらず、空の鳥はみな飛び去っていた。

マイナーバードだけならいいのですが、そのほかの鳥はいけませんね。すみません、ただ我慢できなくて。でもね、私たちはそれを当たり前のことだと思っていますね？　私たちがここに移ってきたとき…、妻はもちろんここで生まれ育ったので、妻をここに戻したんですが。初期の頃、ハトがクークー鳴くのを聞いていたのを覚えています。もちろん、マイナバードは「ガーガー」と鳴いていましたが。だから私は好きではありません。天にマイナーバードがいるとは思えません。分かってます。勘弁してください。このことでメールしないでくださいね。妻に話したことをはっきりと覚えています。昨日のことのように忘れられません。

「ハニー、いつまでも鳥の声を聞いていたいよ。」鳩はいつもそうしているのです。でも、それに慣れてしまうんですよね。コオラウ山脈を思い出します。ただただ壮大なコオラウ山脈。私たちが住む特権のあるこの美しい島々の美しさを、ただただ思い出すのです。そして、私は妻にこう言ったのを覚えています。「これが当たり前だと思わないようにしたい」と。その話の次の章を書くことができますよね？　いつの間にか、私は鳥の声を聞かなくなっていました。私は車に乗り込み、急いでいて、忙しく、ストレス、プレッシャーがあり、忘れたのです。「おぉ、見てください、神さま、これが堕落した世界なのであれば、天はどんなに素晴らしいんでしょうか！」それらは消えてなくなるのです。ここに、鳥はいなくなるとあります。気づきましたか？　ふむ…　26 節。

26 わたしは見たが、豊かな地は荒れ地となり、そのすべての町は、主の前に、その激しい怒りの前に、破壊されていた。

27 それは主がこう言われたからだ、「全地は荒れ地となる。しかしわたしはことごとくはこれを滅ぼさない。
神の憐みです。「これを最後まで見届けるつもりはない。なぜなら、わたしにはまだわたしの民への計画があるからだ。 救い主が、あなたがた、わたしの民の中から生まれるのです。わたしはこれが完全な終わりを迎えて、あなたを完全に破滅させることはしません。あなたを回復させます。」28 節。
28 このために地は悲しみ、上なる天は暗くなる。わたしがすでにこれを言い、これを定めたからだ。わたしは悔いない、またそれをする事をやめない。」
確かに言われているように、「神が語られると、それで決まり。」29 節。
29 どの町の人も、騎兵と射手の叫びのために逃げて森に入り、岩に上る。町はみな捨てられ、そこに住む人はない。
まさに 40 年後に起こったことです。まさにその通りに実現するのです。鳥はいなくなり、かつて実り豊かだった地は荒れ果てる。そこには誰もいません。これはバビロンが侵略した後に実際に起こることを、非常に悲痛に描写しているのです。30 節。
30 ああ、荒された女よ、あなたが紅の着物をき、金の飾りで身をよそおい、目を塗って大きくするのは、なんのためか。あなたが美しくしても、むだである。あなたの恋人らはあなたを卑しめ、あなたの命を求めている。
最後に 2 つほど考えを述べたいと思います。これはまた、かなり生々しい描写です。ある意味、2 つの要素です。1 つ目
「あなたはどうするのか？　おお、今度は紅を身にまとうのか。手遅れだ。」そう、そこには捕まる悲しみがあり、真の悔い改めに導く、神の御心に添った悲しみがあるのです。（II コリント 7:10　参照）
そして、この「恋人があなたを卑しめる」という考え方は、このことを指しているのです。それはこんな感じです。あなたは化粧をし、金の装飾品を身につけようとします。自分を美しく見せ、自分を着飾るのです。何のために？　何をしているのか？　彼らはあなたを見ようともしない。そして最後に 31 節。
31 わたしは子を産む女のような声、ういごを産む女の苦しむような声を聞いた。シオンの娘のあえぐ叫びである。両手を伸べて彼女は言う、「わたしはわざわいだ、わたしを殺す者らの前にわたしは気が遠くなる」と。
ああ、こんな形で聖書の学びの章を終わらせることにならなければいいのに、と思うほどです。しかし、この警告に耳を傾けることは、私たちにとって良いことだと思います。彼らのように、後悔の日々を送らないために。なぜなら、まさにその通りに起こったからです。神の御心に添った悲しみに戻りますが、ところで、カポノ、上がって来て下さい。皆さんお立ちください。締めくくります。真の悔い改めにつながる神の御心に添った悲しみは、後悔を残しません。そして逆に、世の悲しみには必ず後悔が伴います。実はそれが、どちらか知るためのリトマス試験紙なのです。神のみこころに添った悲しみは、真の悔い改めに導きます。後悔はありません。真の悔い改めには、罪への非難はないからです。箴言 28 章 13 節が思い浮かびます。
「その罪を隠す者は栄えることがない、言い表わしてこれを離れる者は、あわれみをうける。」
私たちが主のもとに帰り、告白し、捨て去り、悔い改め、そこから離れ、主の御前から取り除き、主のもとに戻って来るとき、主は拒否されず、私たちに憐みを示してくださいます。それが神のご性質であり神がどれほど良いお方かということです。それが懇願であり、警告です。「悔い改めなさい、悔い改めなさ

い、まだ間に合ううちに、神の御心に添った悲しみをもって、悔い改めなさい。」天のお父様、厳しい内容です。しかし、必要なことです。必要なのです。主よ。今夜、帰路につき、共に過ごしたこの場を離れる前に、主よ。今夜、帰路につき、共に過ごしたこの場を離れる前に、何よりも、あなたの御前で、新たな畏れと敬意と震えをもってそうすることを望みます。警告の深刻さと緊急性だけでも、それはこんにちの私たちのためです。なぜなら、私たちは何が起こるか知っているからです。あなたが教えてくださいました。黙示録の警告と、このエレミヤ書の警告を重ね合わせることができます。あなたは私たち何が起こるか語って下さり、それは必ず起こります。主よ、私たちが耳を傾け、忌まわしいものを取り除くようにと祈ります。主よ、感謝します。警告をありがとうございます。まだ時間があるうちに、警告があることに感謝します。主よ、私たちはあなたを愛しています。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ
http://www.calvarychapelkaneohe.com/
Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 hukuinn7